

2020 年度(令和 2 年度)

事業報告書

(第 10 事業年度)

自 2020 年 1 月 1 日

至 2020 年 12 月 31 日



公益社団法人 企業メセナ協議会
Association for Corporate Support of the Arts

目 次

I. 法人の概況	1
1. 公益社団法人設立年月日	
2. 定款に定める目的	
3. 定款に定める事業内容	
4. 公益法人の認定等に関する事項	
5. 会員の状況	
6. 役員等	
II. 組織運営の概況	3
1. 会議等の開催状況	
2. 部会・ワーキンググループによる事業・活動の推進	
III. 事業概要	5
公 1: 企業による芸術・文化支援および芸術・文化振興による社会創造の促進と普及	
1-1. 提言・提案活動	8
1-2. 調査研究事業	8
1-3. 認定・顕彰事業	10
1-4. 情報発信	14
1) 広報活動	
2) ウェブサイト運営	
3) 出版、ライブラリー	
1-5. 普及促進	17
1) メセナフォーラム等	
2) 国際交流	
3) メセナネットワーク	
4) 地域メセナ交流・推進	
1-6. コーディネート、協力	20
公 2: 芸術・文化活動等への寄付を促す助成に関する事業	
2-1. 重点活動	23
2-2. 助成事業活動状況	24

I. 法人の概況

1. 公益社団法人設立年月日

2011年1月6日

※ 1990年4月20日設立の旧社団法人は、移行認定に伴い2011年1月5日に解散登記を行った。

2. 定款に定める目的

この法人は、企業をはじめ芸術文化に関わる団体が参加、協働し、芸術文化振興のための環境づくりと基盤整備に努め、創造的で活力にあふれた社会、多様性を尊重する豊かな社会の実現に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

この法人は、先の目的を達成するために、次の公益目的事業を行う。

- (1) 企業による芸術文化支援の促進と普及
- (2) 芸術文化支援に関する情報の収集・発信および仲介・協力
- (3) 芸術文化支援に関する調査・研究および文化政策に関する提言・提案
- (4) 国内外の芸術文化振興に関する団体・機関との交流・連携および企業相互の協力・連携による芸術文化支援の推進
- (5) 企業等による芸術文化支援活動の顕彰
- (6) 芸術文化活動への寄付を促す助成に関する事業
- (7) その他公益目的を達成するために必要な事業

この法人は、公益目的事業の推進に資するための事業を必要に応じ行う。

4. 公益法人の認定等に関する事項

当該事業年度内閣府からは特段の指摘事項、勧告、または命令はなかった。

5. 会員の状況

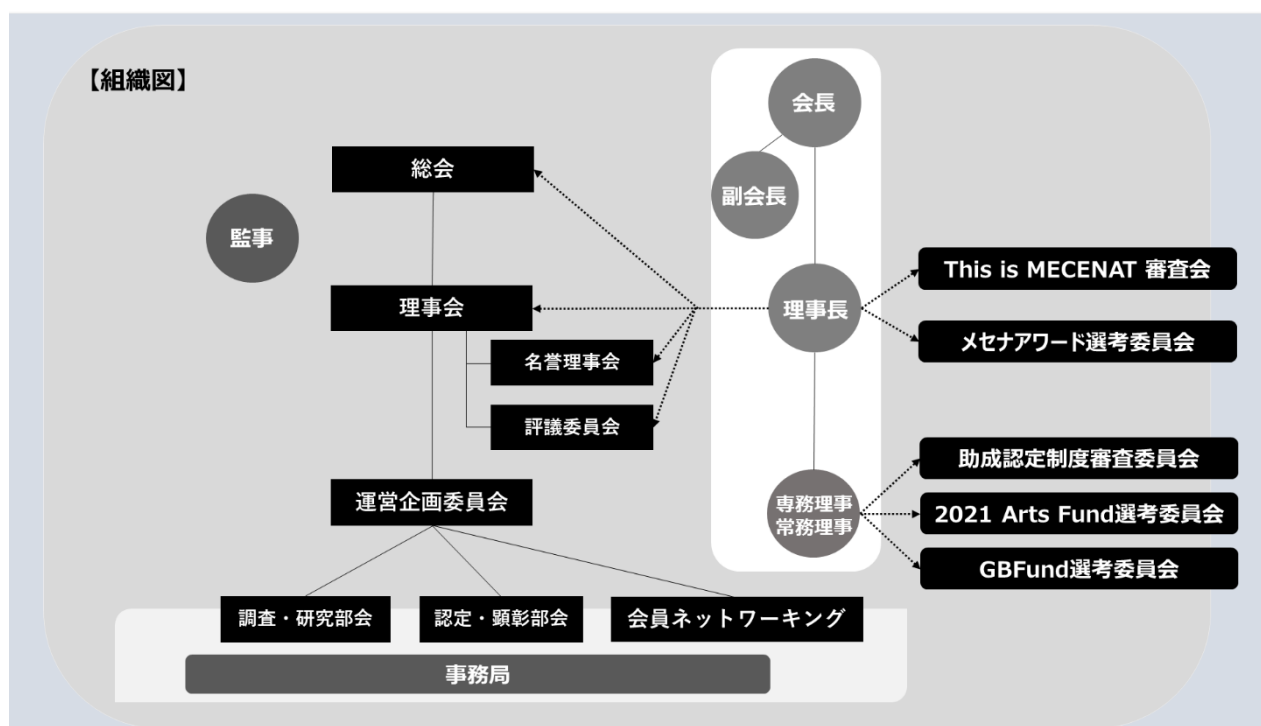
正会員:119社・団体 準会員:31社・団体/19名 (2020年12月31日現在)

6. 役員等

2020年12月31日現在

名誉会長	福原義春	株式会社資生堂 名誉会長
顧問	福地茂雄	アサヒグループホールディングス株式会社 社友
会長	高嶋達佳	株式会社電通 相談役
副会長	渡辺雅隆	株式会社朝日新聞社 代表取締役社長
理事長	尾崎元規	花王株式会社 前取締役会 会長
常務理事	澤田澄子	兼務 事務局長
理事	泉谷直木	アサヒグループホールディングス株式会社 取締役会長 兼 取締役会議長
	古賀信行	野村ホールディングス株式会社 特別顧問
	杉村玄一郎	凸版印刷株式会社 トッパングループ福祉会 常務理事
	布垣直昭	トヨタ自動車株式会社 社会貢献推進部長 兼 企業・車文化室長 兼 トヨタ博物館館長
	萩原なつ子	立教大学 社会学部 大学院 21世紀社会デザイン研究科 教授
	原島 博	東京大学 情報学環特任教授
	福川伸次	一般財団法人地球産業文化研究所 顧問
	二宮雅也	損害保険ジャパン株式会社 取締役会長
	星 久人	株式会社ベネッセホールディングス 特別顧問
	山本尚美	株式会社資生堂 執行役員 チーフクリエイティブオフィサー
	吉本光宏	株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事
監事	岩田武司	よこはま第一法律事務所 弁護士
	岡部 亮	公益財団法人公益法人協会 前相談室室長
名誉理事	遠藤信博	日本電気株式会社 取締役会長
	北島義俊	大日本印刷株式会社 代表取締役会長
	佐治信忠	サントリーホールディングス株式会社 代表取締役会長
	塚本能交	株式会社ワコールホールディングス 代表取締役会長
	早川 茂	トヨタ自動車株式会社 代表取締役副会長
	平田保雄	公益社団法人日本経済研究センター 会長
	福武總一郎	株式会社ベネッセホールディングス 名誉顧問
	山内千鶴	日本生命保険相互会社 取締役 常務執行役員
	渡邊光一郎	第一生命保険株式会社 取締役会長
評議員	足立直樹	凸版印刷株式会社 特別相談役
	奥村洋治	株式会社フジタ 代表取締役社長
	佐藤康博	株式会社みずほフィナンシャルグループ 取締役会長
	竹安 聡	パナソニック株式会社 ブランド戦略担当 参与
	田中稔三	キヤノン株式会社 代表取締役副社長 CFO
	戸田裕一	株式会社博報堂DYホールディングス 代表取締役会長

II. 組織運営の概況



1. 会議等の開催状況

【定時社員総会】

- ・ 3月5日：2019年度(令和元年度)事業報告及び収支決算承認の件／新理事選任の件

【通常理事会】

- ・ 2月12日：2019年度事業報告及び収支決算(案)の件／次期理事案を総会に上程する件／定時社員総会の招集の件／名誉理事選任の承認の件／代表理事・執行理事の職務の執行状況について／理事辞任の件／評議員辞任の件／賀詞交歓会の報告／30周年記念講演会および交流会開催について／今後の予定
- ・ 12月4日：2021年度事業計画及び収支予算(案)の件／資産取得資金積立の件／「2021芸術・文化による社会創造ファンド」実施規程の改定／新会員承認の件／代表理事・業務執行理事の職務の執行状況について／会員動向について／事業報告について／30周年記念交流会について

【臨時理事会】

- ・ 3月5日：代表理事・執行理事選定の件／理事長及び会長、副会長、常務理事選定の件／評議員選任の承認の件
- ・ 3月26日：新会員承認の件
- ・ 5月25日：「芸術・文化による災害復興支援ファンド」実施規程の改定

【運営企画委員会】

- ・ 1月29日：新任委員の紹介・挨拶/2019年度事業報告(案)／第一生命グループのSDGsへの取り組みについて／見学会(マッカーサールーム・第一生命ギャラリー)

- ・ 2月12日:新任委員の紹介・挨拶／野村グループのSDGsの取り組みについて
- ・ 8月5日:新任委員の紹介・挨拶／2020年度1月～7月活動報告／「新型コロナウイルス感染症による企業メセナ活動への影響に関するアンケート調査結果概要報告」
- ・ 12月4日:2021年度事業計画及び収支予算(案)の件/資産取得資金積立の件／「2021芸術・文化による社会創造ファンド」実施規程の改定/新会員承認の件／代表理事・業務執行理事の職務の執行状況について／会員動向について／事業報告について／30周年記念交流会について／電通の活動「コロナ禍での広告小学校の取り組み」について

【役員・運営企画委員会合同会議】

- ・ 2月12日:2019年度事業報告及び収支決算(案)の件／次期理事案を総会に上程する件／定時社員総会の招集の件／名誉理事選任の承認の件／代表理事・執行理事の職務の執行状況について／理事辞任の件／評議員辞任の件／賀詞交歓会の報告／30周年記念講演会および交流会開催について／今後の予定
- ・ 12月4日:2021年度事業計画及び収支予算(案)の件/資産取得資金積立の件／「2021芸術・文化による社会創造ファンド」実施規程の改定/新会員承認の件／代表理事・業務執行理事の職務の執行状況について／会員動向について／事業報告について／30周年記念交流会について

2. 部会・ワーキンググループによる事業・活動の推進

(◎:部会長/グループリーダー、○:サブリーダー 敬称略 *2020/12/31現在)

【調査研究部会】(3回:2/7、11/30、12/23)

企業・企業財団によるメセナ活動の実態や傾向、意識等を調査・分析し、メセナを担う実務担当者に情報を提供するとともに広く社会に紹介。メセナに関する研究の提案、方向性を検討する。

◎森実尚子(日本電気)、上坂陽次郎(朝日新聞社)、吉本光宏(ニッセイ基礎研究所)

【認定・顕彰部会】(4回:4/22、7/16、7/28、12/14)

メセナに取り組む企業・企業財団等を励まし、社会からの関心を高めることを目的として、百社百様のメセナを認定する「This is MECENAT」について議論し、顕彰事業「メセナアワード」の運営を担う。

◎片島康彦(電通)、石橋響子(大日本印刷)、瀧野玲華(第一生命)、反町弘智(東日本鉄道文化財団)、松原千春(竹中工務店)、中村弘子(JTB)

【会員ネットワーキンググループ】(2回:2/21、7/8)

会員相互の交流・連携強化を目的とし、情報交換・相談・研鑽等を恒常的に行える場を設ける。各事業に関連づけた会合を開き、相互のネットワークづくりに貢献する。

◎宗村 泉(凸版印刷)、安井克行(朝日新聞社)、伊藤由貴子(神奈川芸術文化財団)、岡部三知代(竹中工務店)、中島明日香(白寿生科学研究所)、薩川浩章(ベネッセホールディングス)、小森福見(リクルートホールディングス)、鈴木久美子(リソー教育)

Ⅲ. 事業概要

これからの 30 年を見据え、基盤整備と発信力強化に取り組み、コロナ禍においても芸術文化活動の継続・発展に資するよう柔軟に対応
オンラインツールや YouTube を活用しながら着実に活動を展開

本年度は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、協議会も設立 30 周年を迎える記念すべき年としてスタートした。しかし、2 月下旬から新型コロナウイルスが徐々に拡がりはじめ、4 月 7 日に 7 都府県に「緊急事態宣言」が発令され、16 日には対象が全国に拡大されるに至った。協議会は時短や交代勤務で対応し、5 月 25 日には宣言が解除され、6 月 15 日から通常の就業に戻ったが、東京オリンピック・パラリンピックの開催が翌年に延期され、芸術文化分野においても多くの活動が延期や中止を余儀なくされた。協議会も 3 月に予定されていた 30 周年記念特別講演会と交流会を延期するなど大きな影響を受けたが、すべてにおいて安全への配慮を徹底し、芸術文化活動が継続・発展するために柔軟に対応しながら事業活動を推進した。

基盤整備と発信力の強化

これからの 30 年を見据えて、本年も協議会の基盤整備、ならびに組織全体として有機的に活動できる体制の強化に努めた。①調査・研究、②認定・顕彰、③助成を事業の柱とし、会員ネットワーキング、セミナー、広報活動を横断的に実施した。

調査・研究事業では、毎年行っている企業のメセナ活動実態調査については、業務の効率化、回答企業の負荷軽減、より深い分析を可能にする、などを目的にシステム化を行い、本年度から WEB システム上での回答が可能になり、回答数の増加にもつながった。

発信力強化については、過去の蓄積された膨大なデータ量、多様なコンテンツ数により複雑化している WEB のリニューアルを 3 月に行った。リニューアル後も引き続き整理に注力し、継続して改善を進めよりわかりやすく魅力的なホームページになるよう努めた。また、各事業の発信については年間計画に基づき、事業担当と広報がよりよい発信方法を事前に検討し、実施した。認定・顕彰事業では、TIM 認定のプレスリリースを各認定活動の地域別にも 21 種類作成し、それぞれに配信するなどきめ細かい対応を行い、地方紙への掲載件数を増やし活動の認知度を高めるなど、徐々に成果を上げている。

30 周年記念事業

過去の出版物などの電子データ化を 3 月に終え、4 月には、事務局内のライブラリーだけでなく著作権などの問題がないものについては、リニューアルしたホームページ上の WEB ライブラリーにおいても閲覧できるようにした。また、30 周年記念特別講演会や交流会は延期したが、「企業メセナへのアプローチガイド」(2007 年発行)のリニューアル版を本年 4 月 1 日に発行することができた。引き続き、「メセナを知る本 1990-2010」(2010 年発行)のリニューアル版の来年上期中の出版を目指し、準備を進めた。

コロナ禍による影響と対応

4月7日の緊急事態宣言の発令により、企業のメセナ活動の中止や延期が相次ぎ、芸術文化団体やアーティストのみならず関係する方々も仕事がなくなるなど甚大な影響を受け、芸術文化の灯を絶やさないよう多くの支援が行われた。

協議会も5月にニッセイ基礎研究所の協力のもと、共同で会員企業を対象に、自社のメセナ活動へのコロナ禍の影響と対応、今後の活動などについての緊急アンケートを実施した。調査期間は5月11日から20日で、84社(有効回答率70.6%)から回答を得た。その結果、7割の企業が影響を受けたが、新型コロナウイルス収束後は「時期や方法について慎重に検討したうえで再開させたい」という回答が過半数を占め、ほぼすべての回答企業が「コロナ禍での芸術文化活動への支援を必要だと思う」とし、「コロナ禍が過ぎた後に芸術文化の社会的役割や存在価値が高まる」と回答した。(6月3日付プレスリリース参照)

5月25日には、協議会として新型コロナウイルス感染症もGBFundの対象災害と認定し、寄付を募った。10月には芸術文化活動の継続・発展に資するよう16活動に対して支援を行った。(10月29日付プレスリリース参照)また、会員企業によるコロナの影響に対するさまざまな芸術文化支援プログラムも協議会のHPで紹介した。

助成事業では、活動が激減したため、寄付金額で対前年比40%減、相談日の件数も対前年比63%減と大きな影響を受けた。

オンラインツールやYouTubeの活用

調査報告会やSDGsセミナー、アワードの贈呈式など、安全の観点から会場参加の人数を限定しながらYouTube配信も行ったが、それぞれ視聴者数を加えると100名以上となり、今まで以上の参加者を得ることができた。

また、本年度も運営企画委員会や部会のメンバーなどの協力のもと、協議会や各事業のあり方について検討を行ない、これらの会議にもオンラインツールを併用した。このことにより参加しやすくなり参加者数もより増える結果となった。また、緊急アンケートの中で情報交換の場を設けてほしいという要望を受け、音楽ホールを持つ会員、4社・団体の参加によりオンラインで情報交換会を行うことができた。

コロナ禍によりさまざまな影響を受けたが、芸術文化の重要性が再認識されるとともにアフターコロナにも対応したメセナの再定義の検討を加速させ、オンラインの併用、YouTubeの配信などが一般化するなどポジティブな面もあった。協議会としても、地域の活性化への取り組み、全国の会員企業、芸術関連団体などとのコミュニケーションの強化など、さまざまな形で活用して行くためのノウハウの蓄積につながり、着実に活動を展開することができた。

【2020 年度事業等実施状況】

月	主な事業・活動	理事会・部会等
1 月	賀詞交歓会@フジフィルムスクエア(1/21) 助成相談日(1/27) 特定収入に該当しない寄附金に係る確認申請(1/30)	第 1 回運営企画委員会(1/29)
2 月	SOMPOアート・ファンド第 5 回選考会(2/3) 助成相談日(2/7,26)	第 19 回通常理事会(2/12) 第 2 回運営企画委員会(2/12) 調査研究① 第 6 期メセナアソシエイト MTG③ 会員 NW①
3 月	特別講演会&交流会(3/5) 延期 助成認定・2021ArtsFund 第 1 回審査・選考委員会(3/19) 助成相談日(3/27) 『2019 年度メセナ活動実態調査報告書 Mecenat Report2019』発行(3/25) ★ TIM 募集(3/16-5/31)★	第 9 回定時社員総会(3/5) 第 35 回臨時理事会(3/5) 第 36 回臨時理事会(3/26)
4 月	第 7 期メセナアソシエイト公募(4/1-5/31) 『企業メセナへのアプローチガイド』出版(4/1)	認定・顕彰①
5 月	アワード募集(5/31)	第 37 回臨時理事会(5/25) 第 6 期メセナアソシエイト MTG④
6 月	助成認定・2021ArtsFund 第 2 回審査・選考委員会(6/22) 助成相談日(6/26) TIM 審査会(6/19)★	
7 月		認定・顕彰②③ 会員 NW② 第 7 期メセナアソシエイト MTG①
8 月	「SDGs とメセナ」vol.4 「2019 年度メセナ活動実態調査」報告会～ウィズ／アフターコロナと企業の芸術文化による社会創造～(8/5)	第 3 回運営企画委員会(8/5)
9 月	アワード選考会①(9/2)、②(9/16) SOMPO アート・ファンド助成活動視察「飛生芸術祭 2020」(9/5-6) 助成認定・2021ArtsFund 第 3 回審査・選考委員会(9/15) 助成相談日(9/28) 第 1 回会員オンライン情報交換会(音楽ホール偏)(9/14)	第 7 期メセナアソシエイト MTG②
10 月	SOMPO アート・ファンド助成活動視察「あいづまちなかアートプロジェクト」(10/26) 助成相談日(10/27)	第 7 期メセナアソシエイト MTG③
11 月	助成相談日(11/30) アワード贈呈式・記者発表会★(11/20)	第 4 回運営企画委員会(11/25) 調査研究② 第 7 期メセナアソシエイト MTG④
12 月	「SDGs とメセナ」vol.5 特別講演会「アートによる過疎地域の再生」(12/10) 助成認定・2021ArtsFund 第 3 回審査・選考委員会(12/8) 助成相談(個別)	第 20 回通常理事会(12/4) 第 5 回運営企画委員会(12/4) 調査研究③ 認定・顕彰④

★はプレスリリースを配信

1:企業による芸術・文化支援および芸術・文化振興による社会創造の促進と普及

1-1. 提言・提案活動

■行政、自治体など公的機関の文化政策活動への参画

- 東京都のボランティア活動推進協議会へのメセナ案件の推薦を受嘱し推薦
- 静岡県文化審議委員会の委員として文化振興基本計画に参画
- 船橋市文化振興推進協議会の委員として、文化振興施策の評価、提言などを行い総合的な推進に参画
- 文化庁 文産官連携会議に委員として任命され受嘱
- 横浜市広報企画審議会に委員として任命され受嘱

1-2. 調査研究事業

2020 年度の調査研究事業では、国内のメセナに関する調査、メセナ事例の研究(メセナアソシエイト・協議会アソシエイト)、外部機関からの調査受託・相談対応の 3 点に重点を置いて業務を推進した。

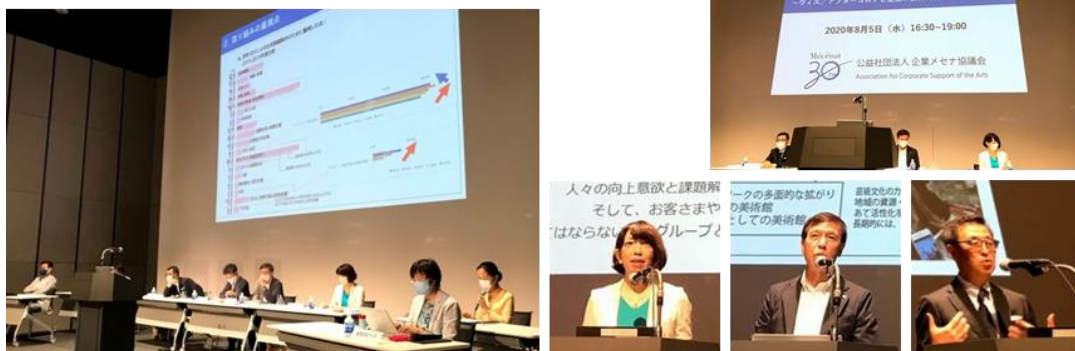
■国内のメセナに関する調査を実施

- 日本の企業・企業財団へ行っている「メセナ活動実態調査」ではアンケートを中心にデータを収集し、オリンピック文化プログラムに対する時事設問に加え、コロナ禍での影響・対策についての設問を新たに設けるなど幅広い観点からメセナ活動の実態を把握することに努めた。回答者負担をできる限り軽減し回答率を向上させるため、今年度より本調査をシステム化した。合わせて、郵送での調査依頼についても開封率および回答率向上を目指し、封筒などを一新した。その結果、2020 年度調査では、企業 465 社、企業財団 178 団体から回答を得ることができた(対前年度比:企業 146 社増、財団 15 団体増)。今後は、さらなる回答率向上のために回答者画面の機能追加、調査分析を深めるために管理者画面の集計機能の追加など改善に努める。
- 『2019 年度メセナ活動実態調査報告書 Mecenas Report 2019』を 3 月 25 日に発行し、事例紹介を増やして報告書の充実をはかった。さらに、プレスリリースを 3 月 31 日に配信し、おもに企業や官公庁より問い合わせをいただいた。また、企業や官公庁のみならず国内のアート関係者の方々へも幅広く調査結果を活用してもらえようよう発送先を増やした。
- 2019 年度のメセナ活動実態調査の結果報告と内容の理解促進を目的に 8 月 5 日に報告会を開催した。前半は、2019 年度のメセナ活動実態調査結果の報告と 5 月に実施したニッセイ基礎研究所との共同調査「新型コロナウイルス感染症による企業メセナ活動への影響に関するアンケート調査」の結果報告を行った。後半は、現在大きな関心を集めている「SDGs とメセナ」の連続セミナー第 4 回目として、株式会社ベネッセホールディングス 坂本様、鬼塚電気工事株式会社 尾野様ほか 3 名様、株式会社東急文化村 中野様の企業 3 社を招き、各社の取り組みについてご講演いただき、モデレーターに立教大学社会学部/大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授の萩原なつ子様を迎え、ゲスト 3 社の講演内容をふまえた意見交換の場を設けた。会場では、ホール収容人数を通常期の 30%程度に制限するなど感染予防対策を徹底し、感染者を出すことなく安全に開催することができた。合わせて、協議会初の YouTube ライブによるオンライン配信を実施した。

- 2020年度の調査研究部会は3回実施した。第1回目は、昨年度実態調査の集計結果の中間報告をもとに報告書と報告会の内容について意見交換および検討を行った。第2回目は、部会長と事務局で2020年度の振り返りと2020年度実態調査の中間報告に向けた事前打ち合わせを行った。第3回目は、第2回目の部会をもとに実態調査の集計結果を分析し、各企業のメセナ活動の現状をより実態に則して把握できるよう検討を行った。

「SDGsとメセナ」vol.4 「2019年度メセナ活動実態調査」報告会
～ウィズ/アフターコロナと企業の芸術文化による社会創造～

- 実施日 2020年8月5日(水) 16:30～19:00
- 会場 ヒカリエホール ホールB・オンライン配信(YouTubeライブ)
(東京都渋谷区渋谷2丁目21-1 渋谷ヒカリエ9F)
- 登壇者 調査研究部会 部会長:日本電気(株) 森実尚子
(株)ニッセイ基礎研究所 吉本光宏
(株)朝日新聞社 上坂陽次郎
ゲスト:(株)ベネッセホールディングス 坂本香織、
鬼塚電気工事(株) 尾野文俊・中上俊明、クリエイティブディレクター 清川進也
大分県立芸術文化短期大学 美術科准教授 於保政昭
(株)東急文化村 中野哲夫
モデレーター:立教大学/大学院 21世紀社会デザイン研究科教授 萩原なつ子
※敬称略
- 参加者 会場:34名(会員:25名、一般:8名、プレス:1名)
オンライン:76名(会員:54名、一般:22名)



※文化庁 令和2年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」委託事業

■メセナ事例の研究(メセナアソシエイト)

- 2014年度より導入した「メセナアソシエイト」は、外部の若手研究者が各自の専門性を活かしながら関心あるテーマを設け、企業メセナについて研究を行うものである。ライブラリーミーティングで議論を深め、調査研究部会と意見交換を行いながら自らのテーマを探り、企業各社への取材を行い、メセナの事例研究を行っている。
- 第6期のメセナアソシエイト(2名)は、定期的に事務局とミーティングを行い、それぞれ1社、2社および1団体へ取材を行った。完成したレポートは9月に協議会ウェブサイトに掲載した。

第6期メセナアソシエイト

氏名	タイトル	取材企業・施設
打林 俊	写真関係メーカーの展覧会を通じたメセナ活動を歴史学から考察する試みーライカカメラジャパンの事例を中心に	ライカカメラジャパン株式会社
照屋真弓	継続する企業メセナ～沖縄の伝統芸能を巡って	株式会社沖縄タイムス社 株式会社琉球新報社 横浜能楽堂 横浜市芸術文化振興財団

- 2020年度第7期も2019年度と同様に、過去に論文執筆経験があり、芸術文化分野における職務経験などを有する方を対象に4～5月に募集し、選考を経て3名採用した。
- 3名のテーマは、「自生するメセナ(仮)」、「企業メセナにおけるパートナーとしてのアーティストとは？(仮)」、「コンテンポラリーダンスに関するメセナ活動についてー振付家の支援の変容と社会的な役割ー(仮)」である。それぞれ複数社／団体へ取材を行い、事例研究から分析を深める。

■メセナ事例の研究(協議会アソシエイト)

- 2020年度から今までのメセナアソシエイトに加えて、若手研究者の育成とともに最新のメセナの動向を多角的に捉えた情報を提供することを目的とした協議会アソシエイトをスタートさせた。協議会が設定したテーマに基づき、調査・研究を行ってもらいホームページなどで公開することにより、日本および世界におけるメセナの潮流を理解し、日本におけるメセナ活動活性化の一助とする。本年は1名採用した。
- テーマは、「海外における企業メセナの最新動向(仮)」とし、イギリス、フランス、ドイツなどの各国の状況を調査する。

1-3. 認定・顕彰事業

「This is MECENAT」

■コロナ禍でも例年並みの「This is MECENAT」認定活動数をほぼ維持

- 7年目となったメセナ認定制度「This is MECENAT」(以下「TIM」)では、164件、96社・団体を認定した。(2019年度:165件、93社・団体)2014年からの登録件数は延べ1,000件となった。
- 募集期間中に緊急事態宣言が発令されたことにより、締切日を延長(5月15日→31日)した。また、対象期間は当年4月～翌年3月までであるが、コロナ禍により活動の中止・延期や再開までスケジュールの見通しが立たないという場合でも、今後も継続意思のある活動については過去の実績もふまえて申請を受け付け、審査を行った。その結果、例年並みの登録件数、認定企業・団体数となった。

- 「年度認定」が認知されつつあることで継続応募数が年々増加しており、昨年認定された活動のうち126件が継続となった。(前年度:121件)

■他事業との連携・告知先を拡げ新規活動の掘り起こしに注力

- 広報や調査研究事業と連携し、外部のプレスリリース配信サービスの利用や調査回答企業へ積極的に働きかけたほか、全国の商工会議所や経済同友会などにも推薦状を送付し、告知先を拡大した。
- 新規活動の掘り起こしを強化し、2020年の新規登録の企業・団体は21社・団体(前年度:24社・団体)で、会員5社・団体、非会員16社・団体となった。非会員のうち1社が、これまで未登録だった地域(栃木県)の経済同友会からの推薦により、認定につながった。

■リーフレットやプレスリリースを工夫し地域への情報発信を強化

- 昨年と同様にリーフレットで活動事例を紹介することにより、多様なメセナ活動について理解しやすくするとともに、担当者の声を掲載し、TIMの認定によるメリットやメセナマークの活用方法を分かりやすく伝えた。
- 認定活動の発表では、通常のプレスリリースに加えて、東京以外の活動地域を中心に、地方紙向けのリリースを21種作成・配信した。その結果、12紙(沖縄タイムス、南日本新聞、十勝毎日新聞、函館新聞、苫小牧民報、中国新聞、四国新聞、下野新聞など)に取り上げていただいた。(前年度:6件)
- 認定活動には「メセナマーク」を付与しているが、活動ウェブサイト・ポスターなどでマークを掲載するほか、協議会SNS(Facebook・Instagram)を活用いただくなど、広報発信に意欲的な企業・団体も見受けられた。メセナの裾野を広げ、可視化し周知していく制度の趣旨が少しずつ浸透している。

■ウェブページのデザイン修正、新規機能の追加による利便性の向上

- TIM特設サイトのトップページのデザインを変更し、主に認定活動の情報発信や制度説明を追加し、「TIMを協議会が認定している」ことを明示するとともに、協議会ウェブサイトとの動線を明確にした。また、過去の認定活動を閲覧できるアーカイブ専用ページを作成し、ユーザーの用途に合わせた幅広い検索機能を追加した。
- TIM/アワードのウェブ申請については、登録専用ページを分かりやすく配置するとともに、アワードの応募項目については字数を増やし(300字→500字)、より詳細に活動をアピールできるように改善した。今後も幅広くメセナ活動を理解いただく媒体として、継続的に情報を発信・蓄積し、内容の充実や利便性の向上に努めていく。

「メセナアワード」

- 「メセナアワード 2020」を選考、長年に渡り若手美術研究者の育成支援に貢献している活動などが受賞

- 「メセナアワード 2020」は、「This is MECENAT 2019」で認定された活動 165 件を対象としており、5 月末の締切りまでに 35 件の応募があった。また、認定・顕彰部会での 2 度にわたる検討会により推薦された活動を含め、最終的に全 47 件を審査員に提案した。
- 対象案件については、9 月中に選考会を 2 回実施(第 1 回はオンライン開催)。メセナ大賞 1 件、優秀賞 5 件、特別賞として文化庁長官賞 1 件(文化庁後援)を選出、優秀賞の賞名は評価ポイントを反映させるように審査委員が創案した。
- 美術研究への支援を長年継続しながら、若手研究者の育成に貢献している活動、広く人々に創作の機会を提供してきた活動、産学官の連携により地域の課題に取り組む活動、次世代育成や地域交流に貢献してきた活動、伝統芸能を守り継承に寄与している活動、時代の変化を捉えてアートによるイノベーションを目指し、社会価値の創造に挑戦する活動が評価された。

■贈呈式を開催、担当者による受賞活動紹介を実施し YouTube でライブ配信

- 贈呈式を 11 月 20 日に浜松町コンベンションホールにて開催。本年はコロナの影響により規模を縮小し、贈呈式と記者発表会の同時開催とした。当日は受賞企業・団体、宮田亮平文化庁長官、審査委員などの関係者とプレスが参加した(参加者 52 名、プレス 13 名)。
- 贈呈式の様子は YouTube でライブ配信した。視聴した方々からは、「受賞活動について、企業の担当者が自らプレゼンテーションするところを初めて見て、より深く理解することができた」などの声が聞かれた。また、首都圏のみならず地方の企業や文化関係者にまで幅広く、贈呈式を知ってもらえる機会となった。先述のとおり、会場参加者数は昨年約 190 名であったのに対し今年約 60 名と限定されていたが、YouTube 視聴者数では、ピーク時同時接続者数は 63 名、12 月 31 日現在の延べ再生回数は 609 回にのぼった。
- 大賞の鹿島美術財団からは、「継続的に研究を続けてきて、今年助成を受けた方が将来また、日本の美術界を背負っていく、そういう希望を持って続けてまいりたいと思います」と喜びのスピーチをいただいた。また、受賞活動紹介では、例年、記者発表会で行われていた担当者によるプレゼンテーションを実施し、琉球新報社には沖縄の伝統芸能である琉球舞踊を披露いただいた。

■プレスリリース、リーフレット制作、オンラインによる受賞活動の広報発信

- 11 月 5 日にプレスリリースを配信(文化庁同時配信)し、主要メディアをはじめ業界紙、専門誌など 13 社の記者の取材があった。受賞活動発表から贈呈式まで含めメセナアワード関連記事数は 87 件となり、大賞を受賞した鹿島美術財団を中心に建築業界や菓子業界の媒体や、地方企業の受賞コメントを交えた記事などが掲載された。
- 贈呈式開催にあわせてリーフレット(30 周年記念仕様)を制作し、受賞活動の紹介、大賞受賞のトップインタビュー、新たに来年度アワード選考の対象となる「This is MECENAT 2020」活動一覧などを掲載した。出席者への配布のほか、協議会関係者約 1440 社・団体へ郵送した。協議会 WEB サイトでは、式典での受賞各社の代表スピーチや選考評などもあわせて、レポートとして掲載した。加えて、本年はアーカイブとして贈呈式の動画を WEB サイトにアップした。



「メセナアワード 2020」贈呈式



担当者によるプレゼンテーションの様子
(YouTube でライブ配信)

【「メセナアワード 2020」受賞活動および受賞企業・団体】

メセナ大賞		公益財団法人鹿島美術財団 鹿島美術財団賞
優秀賞	パンと絵本でメルヘン賞	株式会社アンデルセン・パン生活文化研究所 アンデルセンのメルヘン大賞
	アートで街を充電しま賞	鬼塚電気工事株式会社 プロジェクトONICO
	クラシックを♪♪咲かせま賞	公益財団法人ソニー音楽財団 子どもたちへの良質なクラシック音楽の提供および 音楽を通じた教育活動助成や若手演奏家の支援
	並んでも食べたい音楽で賞	株式会社原田 未来の音楽文化のための芸術文化支援活動
	琉球の心いちまでいん賞	株式会社琉球新報社 琉球古典芸能コンクール・琉球古典芸能祭
特別賞:文化庁長官賞		株式会社資生堂 資生堂ギャラリーの企画・運営

【This is MECENAT 2020／メセナアワード 2020 審査委員】

- 萩原なつ子 (立教大学・教授／(認特)日本 NPO センター代表理事 ※審査委員長)
- 佐倉 統 (東京大学大学院情報学環・教授 理化学研究所革新知能統合研究センター・チーフリーダー)
- 中島信也 (東北新社取締役副社長／CM ディレクター)
- 仲町啓子 (実践女子大学教授／秋田県立近代美術館特任館長)
- 山口 周 (独立研究者、作家、パブリックスピーカー)
- 尾崎元規 (企業メセナ協議会理事長)

* 以上五十音順、敬称略

1-4. 情報発信・提供

■ 広報活動

(1) プレスリリース

各事業の年間計画に基づき、協議会として効果的な配信に努めた。昨年に引き続き PR TIMES などの配信サービスの積極的な利用と各事業との連携に重点を置き、ターゲットを絞りながら丁寧な配信に注力した。

【プレスリリースによる情報発信:9 件】

No.	配信日	リリースタイトル
1	3/5	『企業メセナへのアプローチガイド改訂版刊行』 ～ 企業との信頼関係を築くための「メセナ」のハウツー本 ～
2	3/16	「This is MECENAT 2020」 3/16 より募集スタート
3	3/31	2019 年度メセナ活動実態調査 結果
4	6/3	COVID-19 アンケート調査結果と支援ファンドの開始 新型コロナウイルスによる企業メセナ活動への影響と 芸術文化活動の継続・発展への支援
5	6/11	トヨタ自動車「ネット TAM」芸術文化応援プロジェクト開始 新型コロナウイルスに関する助成金情報や取り組み記事を掲載
6	7/15	「SDGs とメセナ」vol.4「2019 年度メセナ活動実態調査」報告会を開催 ～企業の芸術文化による社会創造の事例紹介～
7	7/16	「This is MECENAT 2020」企業による芸術・文化支援活動 164 件を認定 メセナ活動認定制度「This is MECENAT 2020」
8	10/29	新型コロナウイルス被害への支援決定 GBFund GBFund 芸術文化による災害復興支援ファンド
9	11/5	「メセナアワード 2020」受賞 7 活動決定 メセナ大賞は(公財)鹿島美術財団の「鹿島美術財団賞」

【事業関連記事のメディア掲出数】

年	協議会全体	メセナアワード	TIM	調査研究	助成	国際	その他
2018	3	107	29	1	11	1	185
2019	4	126	47	5	1	0	23
2020	30	100	74	61	70	0	7

(紙面、ウェブ掲載含む)

※2018 年「その他」185 件のうち、159 件が福原義春名誉会長の平成 30 年度文化功労者選定に関する記事

※2020 年「協議会全体」30 件のうち 28 件が「ネット TAM 芸術文化応援プロジェクト」

【主な掲出記事】

掲載日	媒体	内容	関連事業
6/18	日本経済新聞	文化往来/メセナ協、コロナ禍の芸術文化支援へ	助成
7/17	沖縄タイムス	タイムス沖展 メセナに認定 協議会から5年連続	This is MECENAT
7/18	南日本新聞	地域情報 ◆田苑酒造(薩摩川内市)のメセナ活動認定	This is MECENAT
7/28	十勝毎日新聞	六花亭 メセナ活動認定 3年連続「六花の森」運営で	This is MECENAT
7/30	四国新聞	企業協議会の「メセナ2020」 ベネッセの瀬戸芸 認定	This is MECENAT
8/17	苫小牧民報	メセナ活動認定 道内唯一「六花の森」運営で 六花亭	This is MECENAT
8/26	下野新聞	秀郷伝説で町おこし事業 本県初のメセナ認定 文化振興活動にお墨付き 宇都宮のみやもと	This is MECENAT
8/26	中日新聞	静銀の親子体験 優れた文化活動	This is MECENAT
11/6	上毛新聞	ガトーフェスタハラダに優秀賞 メセナアワード 県内初受賞	メセナアワード
11/6	琉球新報	新報芸能コンクールに優秀賞 メセナアワード	メセナアワード
11/7	中国新聞	メセナ優秀賞に「アンデルセンのメルヘン大賞」	メセナアワード
11/11	読売新聞	芸術・文化支援のいま ㊤㊦	調査・研究
11/12	毎日新聞	創作童話コン「アンデルセンのメルヘン大賞」 メセナ優秀賞に輝く 20日に東京で贈呈式 /広島	メセナアワード
11/18	週刊粧業オンライン	資生堂ギャラリー、メセナアワードで文化庁長官賞を受賞	メセナアワード
11/19	朝日新聞	商店街にアートな充電場 優秀賞 「プロジェクト ONICO」に メセナアワード	メセナアワード
11/21	朝日新聞	「メセナ大賞」鹿島美術財団	メセナアワード
12/8	読売新聞	アンデルセン事業 優秀賞 メセナアワード 童話創作応援 評価	メセナアワード
12/18	音楽の友	ソニー音楽財団が「メセナアワード 2020」の優秀賞を受賞	メセナアワード

(2)ウェブサイト運営

ホームページのリニューアルサイト公開

3月18日にホームページのリニューアルサイトを公開し、新しいサイト運用の定着化を図った。アート&カルチャー(会員のメセナ活動)が別サイトに移行したことによりPVが増加。会員企業へ周知するべく情報提供の依頼に努め、あわせて掲載件数増加に注力し、122件・19社の活動を掲載した。引き続きウェブサイトを中心とした情報発信とSNSとの連動を強化した。

【企業メセナ協議会ウェブサイトへの年間アクセス数】

セッション数 (訪問回数)	ユーザー数 (訪問者数)	ページビュー (閲覧数)
52,384	36,728	187,723

※外部サイトの「TIM」と「かるふあん」を除く

※SNS フォロワー数: Facebook 2,216、Twitter 1,789、Instagram 132

(3)メールマガジン

ウェブサイト「アート&カルチャー」掲載の会員活動や協議会のイベントニュースの紹介を中心に、月1回(月初)に定期配信を行った。そのほか定期会員からの掲載依頼の対応、事業と連携した主催イベントや募集の周知、会員向けの優先情報配信として「会員限定メルマガ」など、適宜不定期に配信を行った。メルマガ配信数は会員、一般(協議会関係者・利用者)合わせて約3,000件。メセナ担当者や幅広い文化関係機関への情報発信ツールとなっている。

(4)メセナライター制度

募集時期に新型コロナウイルス感染拡大により緊急事態宣言が発令され、その後の自粛による企業の在宅勤務が進み、取材の実施が難しくなってきたため、当年の募集は中止とし、取材を自粛した。そのかわり、セミナーなどの主催イベントのオンライン化が進み、遠隔での取材が可能になったこともあり、その取材レポートを作成、ホームページへ掲載した。

第6期(2019年4月～2021年3月)委嘱ライター4名(継続2名)

【メセナライターレポート掲出数:2件】

公開	タイトル	ライター
1月	企業メセナ訪問記:富士フイルムホールディングス株式会社 フジフイルム スクエア見学ツアー	石川聡子
8月	開催報告:「SDGsとメセナ」vol.4「2019年度メセナ活動実態調査」報告会～ウィズ/アフターコロナと企業の芸術文化による社会創造～ [レポート]	和田大資

■新型コロナウイルス感染症拡大による影響と対応

ウェブサイトにおいては会員企業のメセナ活動が延期や中止になるなどの影響が出たことにより、会員のメセナ活動情報を掲載しているアート&カルチャーの修正依頼の対応や情報収集に追われた。企業メセナ訪問記では、コロナ禍の状況下においてメセナライターによる取材実施が難しくなり、更新することができなかった。また、コロナに関連して発生した事業活動に随時対応しプレスリリースを配信した。企業においては従来のメセナ活動の実施が困難な状況の中、内容や形態を変更しての実施や、応援する活動を新規に立ち上げるなど、柔軟に対応している企業が数多く見受けられた。そこで協議会ホームページにおいて「新型コロナウイルス感染症拡大に対するメセナの取り組み」のページを立ち上げ、会員各社の芸術文化による“COVID-19”支援を紹介するため、情報を収集し発信を行った。

■出版、ライブラリー

メセナ情報の提供とライブラリー運営、協議会出版物の電子データ化

- 30周年記念事業の一環として、協議会に蓄積された出版物を有効活用するためにこれまで協議会が発行してきた出版物の電子データ化を3月に終え、ウェブリニューアル後のウェブライブラリーに著作権などの問題のないものを公開した。また、「企業メセナへのアプローチガイド」のリニューアル版を4月に発行した。
- 既刊発行物の販売を実施【年間販売数:60冊】
 - ・『メセナセミナーシリーズNo.10 企業へのアプローチガイド』(2007年3月発行):4冊
 - ・『メセナを知る本』(2010年12月発行):7冊
 - ・『企業メセナへのアプローチガイド』(2020年4月発行):48冊
- 協議会事務所内のライブラリーでは、企業メセナ、社会貢献、CSR活動および文化政策、アートマネジメント等に関する情報収集活動を行い、レファレンス対応も積極的に行った。
- 保管ルールに基づき、ライブラリーが広く有効活用されるよう蔵書・資料の整理をすすめた。

【ライブラリー概要】

公開時間	月曜～金曜日、11:00～17:00(要電話予約)
開架資料	<ul style="list-style-type: none">• 和書・報告書:1,627冊(企業と文化・社会貢献、文化行政・文化政策、アートマネジメント・文化経済学、公益法人・NPO・文化税制、名簿・年鑑・一覧)• 洋書:563冊(14カ国の文化政策、アートマネジメント関連)• 企業・企業財団の資料:約960企業・団体分• 新聞・雑誌掲載記事(1989年12月～2019年12月)• 定期刊行物:行政、芸術団体、研究機関、NPO、他
閉架資料	<ul style="list-style-type: none">• 映像・音声資料:265点(主催セミナー:1998-2001年)• メセナアワード贈呈式:1991年～2011年
年間利用者数	2名(一般:2名)

1-5. 普及促進

セミナー・フィールド視察

■コロナ感染対策を施し、オンラインと並行してSDGs時代を捉えた企業メセナを紹介するセミナー・講演会を実施。

- 調査研究事業との連携セミナーや、企業トップによる講演会など、各企業の担当者・経営者や大学教授などを講師に、SDGs時代における企業メセナ・文化政策に関して知見を深める内容を企画・実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止から、当日はオンラインと同時開催とし、遠隔地とのライブ中継も実施

- するなど、より多様な手法で効果的な発信を行った。会員企業担当者をはじめ、芸術文化団体、文化施設など、また首都圏のみならず地方の行政の方や文化関係者も参加し、知識を深める機会となった。
- 当日の講演内容は、アーカイブ動画として蓄積・期間限定で公開するとともに、協議会ウェブサイト上に開催レポートとして報告・発信した。
 - 上記セミナーの参加者アンケートでは100%の「満足／非常に満足」との好評を得た。

SDGs とメセナ vol.5 特別講演会「アートによる過疎地域の再生」

「SDGsとメセナ」をテーマに、企業メセナの未来を探るセミナーシリーズの第5回。世界的に注目されている直島をはじめとした瀬戸内海の島々で、現代アートを起点に地域活性化に尽力してきた福武総一郎氏に講演いただいた。「在るものを活かし、無いものを創る」サステナブルな考えのもと、地域を大切に芸術・文化を通じた社会課題解決を実践してきた立場から、これからの企業メセナのあり方、新たなメセナの価値について考える場とした。

※文化庁 令和2年度「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」委託事業

- 日 時 : 2020年12月14日(木) 13:00~14:30
- 会 場 : 東京ミッドタウン・カンファレンス ROOM5
- 登壇者 : 福武総一郎 (㈱ベネッセホールディングス 名誉顧問)
- 司 会 : 澤田澄子(企業メセナ協議会 常務理事兼事務局長)
- 参加者 : 155名(会場8名、オンライン147名/会員131名、一般24名)



- フィールド視察については、コロナ感染拡大を考慮し、今年度は実施を見送った。

会員ネットワーキング

■コロナ禍におけるメセナ活動の影響・現在の課題や新たな展開などについて話し合う、会員交流の場をつくった。

【オンライン情報交換会】

- 6月3日に協議会と(株)ニッセイ基礎研究所と共同で実施した「新型コロナウイルス感染症による企業メセナ活動への影響に関するアンケート調査」に回答いただいた会員企業・団体に向けて、メセナ活動の現状の取り組み、再開にあたっての検討事項や課題などを話し合う場として、オンラインの情報交換会を開催した。第1回目として音楽ホールを運営する会員を対象に実施し、4社・団体が参加した。参加者からは、客席数の制限やチケットのデジタル化、独自の感染症対策ガイドラインの設置などの対応

や、新たに YouTube 動画を制作・配信するなど、オンラインを活用して魅力を発信し、集客に繋がっていききたいといった前向きな意見が聞かれた。

- 後日、参加企業 1 社から、新たなライブ配信コンテンツの取り組みについて紹介するイベントの招待を受け、情報交換会の参加メンバーとの相互交流につながった。引き続き、次年度の活動についてもこのような機会の提供に努めていく。

第 1 回 オンライン情報交換会(音楽ホール編)

- 日 時 : 2020 年 9 月 14 日(月)15:00~16:30
- 会 場 : オンライン開催
- 参加会員: 6 名
宇賀篤史(住友生命保険)
小林博子、長畑茂男(凸版印刷)
中島明日香(白寿生科学研究所)
水野谷修一、宮下華奈(三井住友海上文化財団)



■ 国際交流

- 韓国の Korea Mecenat Association より、インタビュー協力依頼があり対応。インタビューの内容は日本の企業メセナの活動状況についての質問で、①2019 年度実態調査結果、②ニッセイ基礎研究所との会員向けコロナアンケートの共同調査結果、③コロナ禍での活動事例、④日本のメセナ活動事例(2019 年度と 2020 年度のアワード受賞企業の活動)を紹介した。11 月 19 日配信の Korea Mecenat Association のメルマガおよび WEB サイトに掲載、12 月発行のブックレットに回答内容が掲載された。引き続き、今後も適宜情報交換を行なっていく。
- 協議会 HP のリニューアルに際し、国際ネットワークページの情報を更新。韓国の Korea Mecenat Association など未掲載の機関を追加、既存掲載の機関は最新情報に更新した。

■ 地域メセナ交流・推進


各地域の文化振興に寄与

- 全国メセナネットワークの幹事として会の活性化を図るために、順次各地の会員メンバーを訪問し、各地域の芸術文化活動の状況、それぞれの団体の最新の取組・課題についてヒアリングを行うとともに、会のあり方や今後について意見交換を行った。

1-6. コーディネート、協力

■芸術文化振興の専門機関として幅広い相談・協力に対応

- 企業メセナの専門機関として、協議会に蓄積された情報や知見を活かし、公益芸術団体など芸術文化振興に関わる幅広い相談に応じる他、具体的なメセナプログラムの開発や協力、コーディネート事業を展開。企業間および企業と他のセクターをつなぐ役割を担った。
- 東京都が 2020 年に向けて都民のボランティア参加を促すべく、「東京都ボランティア活動推進協議会 気運醸成分科会」を設置。この構成機関として依頼があり、経団連1%クラブや経済同友会、東京商工会議所ほか、教育機関や中間支援組織等とともに会議に参加している。東京都の主催により「共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞」が設けられ、企業メセナでボランティア活用に取り組む案件の推薦を依頼され対応した。
- トヨタ自動車と協議会が協働して運営するアートマネジメントに関する総合サイト「ネット TAM」については、本年度も継続して事務局を担い、毎月の定例会議を行いながら内容の充実を実現している。本年はコロナ禍によって影響を受け続ける芸術文化分野を応援するプロジェクトをサイト全体で展開し、支援などに役立つ情報の重点的な掲載と発信およびアートの現場の状況をコラムで寄稿いただき、コロナによる未曾有の危機を乗り越えるべく読者との情報共有を図った。あわせて「Voices～みんなの声座」と題してさまざまな分野や立場で芸術と向き合う人がコロナに関する声を掲載するコンテンツを新設。投稿形式のシステムを新規に開発し、テーマによって多様な声をサイト上に集約できるコンテンツとした。また、12 年ぶりに予定していたリアルイベントを急遽オンラインイベントに変更し、7 月 22 日にトークイベント第 1 弾「コロナ下で社会をどう眼差すか？—芸術文化活動の今後に向けたヒント」、10～11 月にかけて第 2 弾「TAM ミーティング 2020 アートの現場の“今”と“これから”について」を【演劇・舞踊編】【音楽編】【美術編】3 ジャンルに分けて 3 回にわたり開催した。オンラインイベントに関しては記録動画およびイベントレポートをサイト上で後日公開し、アーカイブとした。

トヨタ自動車	アートマネジメント総合情報サイト「ネット TAM」の運営
<p>主な業務内容：アートマネジメント総合情報サイト「ネット TAM」(www.nettam.jp)事務局としてサイトの管理・運営、コンテンツの企画・制作、運営事務局の定例会開催、メルマガ配信(定期配信月 1 回ほか適宜)、SNS 管理・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> • アクセス数(年間) 訪問数:約 102 万、ユーザー数:約 49 万、ページビュー:約 302 万 • 主な更新内容: コンテンツ連載(月 1～3 件更新) 【Voices～みんなの声座】(新設)・・・さまざまな分野や立場で芸術と向き合う人の声を集める投稿形式のミニコラム 【リレーコラム】・・・アートマネジメントの現場で活躍中の方々が 1 つのテーマに沿ってリレー形式でつなぐエッセイ。 <ul style="list-style-type: none"> ・「新型コロナウイルスに立ち向かうアート現場レポート」(2020 年 5 月～) ・「文化政策研究とアートマネジメントの現場」(~2020 年 3 月) 【ネット TAM 講座】・・・ウェブで学ぶアートマネジメント講座。 <ul style="list-style-type: none"> ・実践編「芸術文化助成」(2020 年 1 月～3 月) 【社会におけるアートの可能性】 <ul style="list-style-type: none"> ・城崎国際アートセンター(豊岡市) ・山形国際ドキュメンタリー映画祭 【芸術環境 KAIZEN 事例集】・・・アートの現場を改善する画期的な取り組み、仕組みを紹介。 【オリンピック文化通信】・・・オリンピック文化プログラムに関する情報発信レポート。 【英語版サイト】「Olympiad Culture Express」「Pick up Column」 	<div data-bbox="858 1541 1257 1675" style="text-align: center;">  <p>ネットTAM TOYOTA ART MANAGEMENT</p> </div>

【その他協力依頼対応】

■講義・出演

依頼元	内容(期間・開催日)
昭和音楽大学音楽芸術運営 学科アートマネジメントコース	日 時:2020年2月18日(火) 会 場:昭和音楽大学 A211 教室 講 演:「企業メセナ活動の歴史と最新動向」

■委員・役員

依頼元	内容(期間・開催日)
文化庁	「文産官連携会議」委員 (2019年11月26日～2020年3月31日)
文化庁	国民文化祭実行委員会委員 (2020年4月1日～2021年3月31日)
東京都	東京都ボランティア活動推進協議会構成団体 (2015年9月3日～)
静岡県	「静岡県文化政策審議会」委員 (2019年7月26日～2021年7月25日)
横浜市	平成31年度「横浜市広報企画審議会」委員 (2019年7月1日～2020年6月30日) 令和2年度「横浜市広報企画審議会」委員 (2020年7月1日～2021年6月30日)
船橋市	「船橋市文化振興推進協議会」委員 (2019年4月1日～2021年3月31日)
特定非営利活動法人 日本NPOセンター	評議員 (2019年7月1日～2021年6月30日)
認定NPO法人 トリトン・アーツ・ネットワーク	第6期評価委員会委員(2017年～2020年)

■資料使用

依 頼 元	内 容(期間・開催日)
一般財団法人 岡山経済研究所	月刊誌「MONTHLY REPORT」11月号 特集「民間企業とミュージアム」(9/23) 使用資料:Mecenat Report2019
一般社団法人東京都中小企業診断士協会	アリババジャパンプレス 経営戦略のヒントとして SDGsやメセナ活動について解説するための客観的データ 使用資料:Mecenat Report2019、「新型コロナウイルス感染症による企業メセナ活動への影響に関するアンケート調査結果」(11/12)
韓国メセナ協議会	メールマガジン配信・web サイト掲載 2020年11月19日、ブックレット 12月発行
日本政策投資銀行	統計要覧 2021 2020年12月発行
ヒカリエホールカンファレンス	ホームページに新設する感染症対策のページに講演会写真を掲載(12/21)

■取材協力

依 頼 元	内 容(期間・開催日)
九州産業大学/アートサポート ふくおか	福岡県内企業のメセナ活動の現況に関する実態調査および This is MECENAT 認定活動事例を提供(3/18)
社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ(SIMI)	SIMI がプラットフォームの役割を担い、「社会的インパクト」評価やマネジメントを日本に効果的に普及・発展させ、「社会的価値の可視化」を推進していく方法についてのヒアリング(3/26)
日本経済新聞社	「新型コロナウイルス感染症による企業メセナ活動への影響に関するアンケート調査結果」について(6/15)
Mecenat Association Korea	コロナ禍での企業メセナ協議会の活動や日本のメセナ活動状況をテキストインタビュー(9/15)
読売新聞京都総局	コロナ禍で芸術文化支援のあり方や重要性が問われるなかの民間支援状況について(10/29)

■後援 ラベル提供

依頼元	内容(期間・開催日)
特定非営利法人 世界劇場会議名古屋	世界劇場会議国際フォーラム 2020in 可児 (2020年1月30日、31日)
特定非営利法人 世界劇場会議名古屋	世界劇場会議名古屋 フォーラム 2020 (2020年6月12日)➡延期
日本ファンドレイジング協会	ファンドレイジング日本 2020 (2020年7月8日)➡中止
ローム株式会社	ロームミュージックフレンズ No.10(2020年3月30日) ロームミュージックフレンズ No.11(2020年8月17日)

■大学生の実習・インターンシップ受入れ

- 本年度は無し

公2:芸術・文化活動等への寄付を促す助成に関する事業

2-1. 2020年重点活動

■新型コロナウイルス感染症拡大による影響と対応

(1)GBFundの対象災害として認定

文化事業の中止や延期、文化施設の休館などが相次ぎ、新型コロナウイルス感染症拡大による芸術文化への影響が大きく、芸術団体や文化施設、アーティストや文化産業従事者も多大な損害を受けた。その状況を踏まえ、GBFundでは5月25日に新型コロナウイルス感染症を対象災害として認定し、同時に寄付の募集を開始した。8月6日～24日に活動募集、10月8日に選考を行い16件の助成を実施。あわせて引き続き対象災害について、寄付者の意向に沿った寄付のコーディネートを行った。

(2)助成制度利用者への対応

新型コロナウイルスは助成制度利用者の活動にも大きな影響を与えた。認定活動のうち中止は7件、活動内容の変更および延期にいたっては77件にも及んだ。新型コロナウイルスによる活動内容の大きな変更および延期については芸術文化活動の支援の観点から、特別措置として活動の「認定」を維持することができるようにし、各活動の事情により個別に柔軟な対応をした。

■助成事業の体系化

より多くの多様な支援が行えるよう、活動者にわかりやすく利用しやすい制度とするため、制度運用について再検討を行い、体系的な整理を実施した。2021ArtsFundにおいては寄付が1件も通らなかった採択活動に対しては制度利用手数料を追加するなど、新たな運用を2021年1月に開始できるよう準備を進めた。

■助成事業 Web システム「かるふあん！」のシステム改良

助成事業の体系化に伴い、新たな運用に合わせて、システム改良を実施した。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、縮小や中止となる活動も多数あり、それらに柔軟に対応できるようシステム改良を実施した。

2-2. 2020 年 助成事業の活動状況

2-2-1. 2021 芸術・文化による社会創造ファンド[2021ArtsFund]

■全体の利用実績

1. 【申請・採択状況】

(1) 芸術・文化団体による活動の利用状況

・2020 年度各回利用実績

実施回	選考日	申請数	採択数
第 1 回	2020 年 3 月 19 日	3 件	3 件
第 2 回	2020 年 6 月 22 日	5 件	5 件
第 3 回	2020 年 9 月 15 日	5 件	4 件
第 4 回	2020 年 12 月 8 日	5 件	4 件
合計		18 件	16 件

・年度別利用状況の推移

実施年度	申請数	採択数
2016 年度	20 件	16 件
2017 年度	27 件	22 件
2018 年度	23 件	19 件
2019 年度	23 件	20 件
2020 年度	18 件	16 件

(2) 目的別ファンドの継続運用と寄付者の要望に沿った寄付コーディネートを実施。

●SOMPO アート・ファンド（2016 年 6 月設立）

当ファンドの特徴である、各地の活動をつなげ、ネットワークの形成を目指した活動報告会が新型コロナウイルス感染症拡大により実施できなかった。また、選考後にコロナ禍が活動実施に大きく影響し、2 件の取り下げがあり、助成活動においても活動内容の変更を余儀なくされた。

実施回	選考日	申請数	採択数
第 1 回	2016 年 7 月 22 日	公募実施せず	18 件
第 2 回	2017 年 5 月 15 日	98 件	20 件
第 3 回	2018 年 1 月 26 日	137 件	16 件
第 4 回	2019 年 2 月 1 日	152 件	16 件
第 5 回	2020 年 2 月 3 日	114 件	3 件

※オリンピック・パラリンピックに向けて設立されたSOMPOアート・ファンドは当初の予定通り5回で終了。

●The Okura Tokyo Cultural Fund (2017年3月設立・2019年10月名称変更)

実施回	選考日	助成総額	採択数
第1回	2017年3月16日	2,774,000円	3件
第2回	2018年3月6日	1,000,000円	2件
第3回	2018年12月17日	900,000円	2件
第4回	2020年3月19日	1,000,000円	2件

※活動の公募は実施しない。

※第5回は新型コロナウイルス感染症により選考時期を見送り

2.【寄付・助成状況】 SOMPO アート・ファンド、Hotel Okura Tokyo Cultural Fundを含む

年度	寄付総額	助成総額
2016年度	377,876,359円	312,131,769円
2017年度	256,823,600円	191,149,911円
2018年度	332,193,261円	300,837,133円
2019年度	326,212,289円	324,521,423円
2020年度	174,023,742円	168,341,792円

2-2-2.「芸術文化による災害復興支援ファンド」(GBFund)

■全体の利用実績

1.【申請・採択状況】2017年1月名称変更より

実施回	選考日	申請数	採択数
第1回	2017年7月14日	54件	11件
第2回	2018年7月13日	46件	13件
2019年	2019年2月27日	10件	10件
2020年	2020年10月8日	74件	16件

※申請数、採択数には、追加支援を含む。

※寄付金減少により2019年からは公募ではなく、寄付者の要望に沿ったコーディネートにより実施。

2.【寄付・助成状況】※2011年3月設立「東日本大震災による復興支援ファンド」を含む

年度	寄付金総額	寄付金累計額	助成金総額	助成金累計額
2017年度	4,367,060円	159,085,370円	4,897,390円	145,430,577円
2018年度	1,445,824円	160,531,194円	3,080,000円	148,510,577円
2019年度	1,532,627円	162,063,821円	1,303,127円	149,813,704円
2020年度	3,587,455円	165,651,276円	3,444,376円	15,3258,080円

2-2-3. 助成認定制度

■ 小さな活動を支援する、寄付集めの入り口として定着

2021 Arts Fund 運用開始後、中・小規模の活動にご利用いただき、任意団体や比較的身近な芸術文化活動を実施されている方々を支援する制度として定着してきた。継続して利用している団体も多いが、新たに寄付集めに挑戦しようとする団体もある。月1回実施している助成相談日については、2020 年度相談件数 15 件に対応し、制度拡大を推進している。しかしながら新型コロナウイルスによる影響が大きく利用者は大きく減少している。(前年度 41 件)

■ 全体の利用実績

1. 【申請・認定状況】

実施回	審査日	申請件数	認定件数
第1回	2017年 3月 16日	25件	18件
第2回	2018年 3月 6日	21件	18件
第3回	2018年 12月 17日	13件	10件
第4回	2020年 3月 19日	7件	6件
合 計		66件	52件

2. 【年度別利用状況の推移】

実施年度	申請数	認定数
2016年度	102件	81件
2017年度	72件	65件
2018年度	88件	72件
2019年度	86件	70件
2020年度	66件	52件

3. 【助成認定制度を通じた寄付件数と寄付金額】

年 度	寄付件数	寄付総額	助成総額
2016年度	337件	62,765,639円	67,485,639円
2017年度	412件	76,613,798円	77,024,613円
2018年度	471件	74,981,467円	75,820,652円
2019年度	499件	75,797,558円	73,572,558円
2020年度	289件	65,311,020円	60,146,020円

以 上